

第70回全国高等学校PTA連合会大会

島根大会

《無観客概要Ⅲ版》



「ご縁(えん)づくり」

～新たな明日への礎のために～

島根大会：令和3年8月25日(水)

2021年7月1日

第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会実行委員会

〒690-0876 島根県松江市黒田町538

島根県高等学校PTA連合会事務局

TEL 0852-22-8602 FAX 0852-22-8735

E-mail : shimakp@orange.ocn.ne.jp

大会専用HP : <http://mtg.shimakp.jp>



新型コロナウイルス感染症対策に係る大会実施（案）について

大会（全体会）は、原則無観客としライブ映像をオンライン配信します。
分科会（6つの分科会すべて）はあらかじめ録画した映像をオンライン配信します。

新型コロナウイルス感染症の収束には、まだ時間がかかる現状を鑑み、大会実行委員会では、大会そのものを中止するのではなく、安全な大会実施を目指して原則無観客で開催することといたしました。内容は、今まで予定していました通常開催とは大幅に変更いたします。また、新型コロナウイルス感染症の状況しだいでは、今後も大会実施方法の変更も考えられます。ここでは、現時点での基本的な大会実施案を掲載しております。

1. 全体会（8月25日（水））

島根県民会館よりライブ配信を行います。 9：00 ～ 12：50（予定）

分科会

6つの分科会の内容は、通常開催と同じ。

前撮りした画像をライブ配信いたします。 全大会終了後～

各分科会は、その後一定期間（未定）アーカイブを視聴できます。各高校、各連合会等でのPTA研修会にご利用いただけます。

2. 視聴対象者

全国高P連に加盟する高校（令和3年度 3,913校）の会員。但し、学校単位で島根大会実行委員会事務局にあらかじめ参加費を納めた高校に限る。

視聴には、PCまたはモバイルが必要です。参加費を支払った学校に各都道府県市高P連・協議会事務局を通じて各学校に通知するパスワードも必要となります。視聴ページには、島根大会HP掲載のバナーからパスワードでログインします。大会HPには、PDF版の大会要項（パスワード必要）を掲載いたします。

3. 大会会場（島根県民会館）の観客入場制限について

原則無観客としますが、人数を制限した以下の入場者を受け入れます。

希望する県内のPTA会員（1校当たり10名程度×36校）。

但し、島根県内に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等が発出されている状況では、無観客といたします。

4. 大会参加者の感染予防対策

①マスクの着用をお願いします。

②大会参加の2週間前から体温の測定などを行い、各自の体調管理をお願いします。

③会場入口には自動検温装置を設置して入場者の発熱をチェックします。

④役員、係員以外で入場の方には、入場の際にお名前、連絡先等の記入をお願いします。

⑤会場内で混み合うところは、時間をずらすなどして密の回避にご協力ください。

⑥会場内の各所に手指用の消毒液を用意しています。

⑦会場内も会場外も禁煙です。

「島根大会」ポスター&シンボルマーク

大会ポスター



島根県立出雲高等学校

1年(平成30年度) 新野美琴

(作品の趣旨)

画面真ん中に向かって手を伸ばしていく構図にすることで「全国からPTA役員が集まり、縁を結ぶ」ことを表しました。稲佐の浜に夕日をバックとし、雲の中に松江城、出雲大社を描くことで島根県の名所いくつかが一目でわかるようにしました。また、県花の牡丹で華やかさを添えています。

大会シンボルマーク



島根県立出雲高等学校

2年(平成30年度) 若槻穂波

(作品の趣旨)

島根県の伝統工芸である勾玉、^{まがたま}「神話の国」出雲地方に伝わる「因幡の白兔」を描き、過去から未来へと伝わる島根の伝統を表現しました。また、叶結びを大きく描き、ひもを円に形作ることで、今回のテーマである「ご縁づくり」を表現しました。

(デザインについて)

20→21には、令和3年に延期となったこの大会に、令和2年の開催めざして準備に携わったすべての島根県高P連会員の思いを込めています。

大会概要

● 大会 期 日

令和3年8月25日(水)

● 開 催 場 所

島根県民会館 全体会会場
〒690-0887 島根県松江市殿町158 TEL. 0852-22-5506

● 主 催

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

● 主 管

島根県高等学校PTA連合会

● 後 援 (予定含む)

文部科学省、全国高等学校長協会、中国・四国地区高等学校PTA連合会、島根県、島根県教育委員会、松江市、松江市教育委員会、安来市、安来市教育委員会、雲南市、雲南市教育委員会、出雲市、出雲市教育委員会、島根県公立高等学校長協会、島根県高等学校教頭・副校長協議会、島根県公立学校事務長会、島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、NHK松江放送局、TSKさんいん中央テレビ、BS S山陰放送、日本海テレビ、山陰ケーブルビジョン、雲南夢ネット、出雲ケーブルビジョン、エフエム山陰、山陰中央新報社、朝日新聞松江総局、読売新聞松江支局、毎日新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、島根日日新聞社

● 大会 テー マ (案)

ご縁づくり～新たな明日への礎のために～

● 大会 趣 旨

令和2年、世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、東京オリンピックパラリンピックなどのイベントを始め、高校生の全国大会や交流の場などを延期や中止に追い込みました。私たちの全国高等学校 PTA 連合会大会島根大会も例外ではなく、昭和27年に大会が始まって以来、初めての中止となりました。しかしながら、その後全国高等学校 PTA 連合会で協議を重ね、島根大会は令和3年への延期が決定いたしました。

新型コロナウイルス感染症の流行は、これまでの日本社会の強み・弱みの両面を浮き彫りにしました。教育についても例外ではありません。人と人の生身の行き来、対面の授業や会話が困難になったことで、学校と生徒一人一人をつなぐ ICT が、いかに有効なツールであるかが実証されました。今後、このような危機に対応し格差のない教育を維持するためには、ICT 機器やネットワークの一層の整備と積極的な活用が教育界に広がっていかねばならないと考えます。

長期の学校休業は生徒の学ぶ権利の保障ばかりではなく、あらゆる学校行事や部活動等に影響を与えました。しかし、私たちは改めて気づかされました。社会性の原点、他者と協力して新たな価値を生み出す原点は、人と人が向き合い語り合うことであり、それは今後も揺るぎないに違いありません。

島根県出雲地方では旧暦の十月を「神在月」と呼び、全国から八百万の神々が「出雲大社」を中心に集い、自然・人・ものなどあらゆる「ご縁」を話し合うとされています。未曾有の事態を経験した全国の会員が、この地に集い、子どもたちを取り巻く今後の日本社会、つまり日本の新たな明日への礎について語り合い親交を深めていくことは大きな意味があると考えます。

島根大会が全国に新たな「ご縁」を生み、私たち大人の「つなげる力」を一層強める機会になることを、そして子どもたちが日本のみならず世界へと豊かな「ご縁」を紡いでいく基盤になることを願っています。

大会日程表(案)

全国大会島根大会	
8月24日(火)	8月25日(水) 全体会
準備&リハーサル 島根県民会館	8:00 全体会受付 8:00~8:50(50分)
	9:00 アトラクション① 9:00~9:20(20分)
	10:00 開会式・式典 9:20~10:20(60分)
	11:00 記念講演・公演 10:25~11:50(85分)
	12:00 アトラクション② 11:50~12:10(20分)
	13:00 閉会式 12:15~12:50(35分)
	14:00 分科会前撮り オンライン配信開始
	15:00 その後 アーカイブ配信予定
	16:00
	17:00
18:00	

※全体会は、オンラインにより映像をライブ配信する。

島根大会 HP 掲載のバナーからパスワードでログインします。

※分科会は、14:00頃から前撮りしたものをオンラインにより、映像配信する。

その後、令和3年12月末までアーカイブ配信の予定。

会場 島根県民会館

受付8:00 ~ 8:50 全体会9:00 ~ 12:50

次 第	時 間	出 席 者
アトラクションⅠ 開会式 ・開式の辞 島根大会実行委員会副会長 ・国歌演奏 ・大会会長式辞 全国高P連会長 ・来賓祝辞 文部科学省、島根県知事等 ・来賓紹介 ・表彰式 全国高P連会長、文部科学省 ・閉式の辞 島根大会実行委員会副会長	9:00～ 9:20 9:20～10:20	文部科学省、島根県関係者、開催地自治体関係者 全国高P連関係者：大会会長、副会長、大会運営委員（全国高P連理事）、大会顧問（全国高P連顧問）、受賞者、島根大会実行委員会関係者
記念講演・公演 ①講師紹介 ②講演・公演 講師 小泉八雲記念館館長 小泉 凡氏 俳優 佐野 史郎氏 ミュージシャン 山本恭司氏 ③講演お礼 島根大会実行委員会	10:25～ 11:50	記念講演講師 島根大会実行委員会関係者
アトラクションⅡ	11:50～ 12:10	
閉会式 ・開式の辞 島根大会実行委員会副会長 ・閉会の挨拶 全国高P連会長 ・全国高P連旗返還 島根大会実行委員会会長 ・全国高P連旗授与 石川県高等学校PTA連合会長 ・次期開催地挨拶 石川県高等学校PTA連合会長 ・閉会の挨拶 島根大会実行委員会会長 ・閉式の辞 島根大会実行委員会副会長	12:15～ 12:50	全国高P連会長 石川県高P連会長 島根大会実行委員会会長・副会長

※全体会は、オンラインにより映像をライブ配信する。

島根大会 HP 掲載のバナーからパスワードでログインします。

全体会アトラクション（案）

全体会時に、ライブの映像を配信する。

	内 容	出 演
I	吹奏楽（立奏）の演奏。ステップ等のパフォーマンスを取り入れた演奏・演技を行う。	島根県立松江商業高等学校吹奏楽部
II	日本遺産となった石見神楽を上演する。演目は古事記、日本書紀にも登場する「大蛇」。迫力ある須佐之男命の大蛇退治を演じる。	島根県立浜田商業高等学校郷土芸能部



講演「小泉八雲がみた日本の魅力～五感でとらえた明治日本のすがた」小泉 凡 氏

公演 小泉八雲朗読のしらべ

「八雲彷徨～神々の国の首都 松江から」

佐野 史郎 氏 山本 恭司 氏

日本を代表する俳優の佐野史郎と世界的なギタリスト山本恭司は、ともに小泉八雲が「神々の国の首都」と畏敬し、親しんだ町、島根県松江市の出身です。その2人のライフワークとして、小泉八雲の作品を素材とした朗読パフォーマンスを、2007年より継続的に行っています。2014年には八雲の母の故郷ギリシャ、2015年には父の故郷アイルランド、2019年には作家としてのキャリアを築いたアメリカ、そして国内で多くの公演を果たし、人々を感動の渦に巻き込んできました。2人が紡ぐ言葉と音楽は、松江で生まれた新しい総合芸術といってもよいかもしれません。近年、「八雲のオープン・マインドなまなざし」が現代社会の文脈で再評価され、新しい文化資源として文化創造に活かされています。この朗読パフォーマンスもその大きな潮流の中に位置づけることができるでしょう。生涯、語り部と深く交わり作品を紡いだ八雲。その深遠なイメージの世界を体感してください。

小泉 凡



小泉 凡 氏「講演」 小泉八雲記念館館長。東京都出身。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践研究や、小泉八雲の「オープン・マインド」を社会に活かすプロジェクトを世界の八雲ゆかりの地で展開する。2017年7月、日本・アイルランドの文化交流貢献で外務大臣表彰。主著に『民俗学者・小泉八雲』（恒文社、1995年）、『怪談四代記―八雲のいたずら』（講談社、2014年）ほか。日本ペンクラブ会員。焼津小泉八雲記念館名誉館長・島根県立大学短期大学部名誉教授。



佐野 史郎 氏「朗読」 俳優。松江市出身。1975年、劇団シェイクスピア・シアターの創立に参加。1980年、劇団状況劇場（唐十郎主宰）に移籍。退団後、1986年林海象監督「夢みるように眠りたい」で映画主演デビュー。1992年テレビドラマ「ずっとあなたが好きだった」（TBS）のマザコン男「冬彦」役が社会現象となる。1999年、映画「カラオケ」で初監督。アレクサンドル・ソクーロフ監督「太陽」、カン・ジェギョ監督「マイウェイ」など海外作品にも出演。チェコのイジイ・バルタ監督によるラフカディオ・ハーン原作「雪女」ではプロデューサーとして名を連ねる。



山本 恭司 氏「演奏」 ミュージシャン。松江市出身。18歳でヤマハ・ネム音楽院に入学。在学中にBOWWOWのリード・ギタリスト、リード・ボーカリストに抜擢される。デビュー当時は、キッスやエアロスミスとのツアーが大きな話題を呼び、常に日本のロック・シーンをリードしてきた。その後、VOW WOWを結成しロンドンをベースにヨーロッパ、アメリカで約4年間活動。海外での評価も高く、海外有名アーティストへの影響力も大きい。バンド活動以外にも、ギター・インストゥルメンタル・アルバムリリースやジャズ・フュージョン系ミュージシャンとのセッションなど、その幅広い音楽性を武器に世界の音楽シーンで活躍している。

1 映像配信

14:00 ~

6つの分科会すべてで、前撮りした画像をライブ配信いたします。

令和3年12月末までアーカイブ配信の予定です。各高校、各連合会等でのPTA研修会にご利用いただけます。

視聴には、PCまたはモバイルが必要です。大会までに、参加料を支払った学校に各都道府県市高P連・協議会事務局を通じて各学校に通知するパスワードも必要となります。視聴ページには、島根大会HP掲載のバナーからパスワードでログインします。大会HPには、PDF版の大会要項（パスワード必要）を掲載いたします。

第1分科会（案）

映像配信 14:00~

テーマ・サブテーマ

「With コロナにおける学校教育の形とこれからの学びのデザイン」

～予測不可能な未来を生きていくには～

企画 株式会社ベネッセコーポレーション

趣旨・内容等

新型コロナウイルスの流行により、否応なく変革が求められた2020年。休業や分散登校など「学校」の在り方だけでなく、家庭学習の増加やICTの活用など、子どもたちの「学び」を取り巻く環境そのものが大きく変わった。奇しくもコロナ禍により、これからの子どもたちが生きていく「予測不可能な社会」を目の当たりにする形となり、新教育課程でも言われる「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」の育成の重要性をより強く感じた人も多いただろう。教育制度の解説や模擬授業を通して「困難な時代を生き抜くために、子どもたちにとって必要な学びとは何か？」を体感していただく機会とする。これからの日本を創る子どもたちと、彼らを育む学校、PTAの良い「ご縁」をつなぐ一助となることを願う。

分科会形式 基調講演、模擬授業

基調講演講師 (株)ベネッセコーポレーション

教育情報センター センター長 谷本 祐一郎 氏

模擬授業講師 授業デザイン研究所 代表 前岡山県立林野高等学校長 三浦 隆志 氏

第2分科会(案)

映像配信 14:00~

テーマ・サブテーマ

「正しく怖がる」で創るネットとのご縁

～SNS・スマホで絶対に失敗しない方法とは～

企画 グリー株式会社

趣旨・内容等

現代社会において、インターネットはビジネスや生活に不可欠である一方、使い方を間違えると情報の漏えいやネット炎上につながるリスクも秘めている。この分科会では、SNS やスマホが怖いもの、

リスクだと感じている方に、「ネットで絶対に失敗しない方法」を知っていただくことが出来ればと考える。ネットの専門知識は不要、メモ取りも必要なし、講演を終えた後、誰かに伝えたいくなる「ネットで絶対に失敗しない方法」の答えを、参加された全ての方にご理解いただく。また、後半では日頃の講演では扱っていない「炎上させてしまったらどうしたら良いのか」という点を含め、ネット利用における『「思考力・判断力・表現力」の重要性』をキーワードに必要な知識、対処法について話をさせていただき、大人も子供も SNS を正しく利用する方法を考える機会とする。

分科会形式 基調講演と会場インタビュー・質疑応答

基調講演講師 グリー株式会社 社会貢献チーム マネージャー 小木曾 健 氏

第3分科会(案)

映像配信 14:00～

テーマ・サブテーマ

「地域で育む未来への学び」
～教育の魅力化でひろがる新たなご縁～

趣旨・内容等

子どもたちの個性や能力を伸ばし、豊かな心を育むためには、さまざまな性格をもつ地域社会(自然、歴史、文化、伝統行事、産業)に学びの場を設定し、多様な体験活動の機会や多くの異なる世代の人々との出会いを与えることが必要である。地域の持続性、活性という観点から「地元の高校」の存在意義は重要であり、これからの時代に必要な資質・能力を子どもたちに育むために、地域や社会に開かれた教育課程の実現が求められている。また少子化により高校の小規模化・再編成が進むなか、高校をいかに魅力化していくかは、差し迫った課題である。一方、地域社会の多様な機関と連携・協働し、特色ある学びを実現している高校や、全国から生徒を募集する高校も増えている。本分科会では島根県における「教育の魅力化」及び「地域みらい留学」をテーマに、学校と地域社会がいかに連携・協働していくか、管理職や生徒・保護者等と共に探究する機会としたい。

※注釈

「地域みらい留学」とは

高校3年間を地域で過ごす「地域みらい留学」と、高校2年次に1年間地域で過ごす「地域みらい留学 高2留学」があり、全国約70校が参画している。

分科会形式 基調講演とディスカッション

挨拶 文部科学省初等中等教育(調整中)

基調講演講師 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事

島根県教育庁 教育魅力化特命官 岩本 悠 氏

コーディネーター 認定NPO法人カタリバ 代表理事 今村 久美 氏

パネリスト 岩本 悠 氏

島根県立島根中央高等学校 校長 立石 祥美 氏

島根県立津和野高等学校 魅力化コーディネーター

(一財)つわの学びみらい 事務局次長 山本 竜也 氏

地域みらい留学生保護者 池本 洋一 氏

地域みらい留学卒業生 大学生 鈴木 元太 氏

島根県立隠岐島前高等学校2年生 岩永 真詩さん

島根県立隠岐島前高等学校2年生 青山 光輝さん

第4分科会(案)

映像配信 14:00~

テーマ・サブテーマ

体験でつなぐ人々とのご縁

～「人生100年時代」「不確かな時代」を生きるためのキャリアデザイン～

趣旨・内容等

「人生100年時代」の到来が現実味を帯びてきている現代において、従来の「教育を受ける」「仕事をする」「引退して余生を過ごす」という3つのライフステージモデルは大きな変化を迫られている。また、今回の突然の新型コロナウイルス感染症の世界的な広がり、人々に予測不可能な未来の存在を改めて意識させた。不確かで激しく変化する社会の中で流されることなく、同時に急激な変化にも対応しながら自らの人生を生き抜くためには、自らのキャリアを主体的につくり人生そのものを豊かにしていくための学びが必要となる。そして、そのような社会では「教育」「多様な働き方」「無形資産（経験や人的ネットワーク）」などの必要性がさらに高まってくると考えられている。第4分科会では、体験や人との出会いが自分のキャリア形成にどう結びついていくのかということを中心に、グローバルの視点に立ったキャリア教育、人生とキャリアなどについて、子どもたちだけではなく現代を生きる私たち大人自身の課題としても考える機会とする。

分科会形式 基調講演とディスカッション

基調講演 ノンフィクション作家 中村 安希 氏

コーディネーター 島根大学 地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン 部門長
准教授 丸山 実子 氏

パネリスト 中村 安希 氏

(一社)全国高等学校PTA連合会 顧問 牧田 和樹 氏

島根県立浜田高等学校 校長 熊谷 修山 氏

松江市立皆美が丘女子高等学校 卒業生 森脇 美麗空 氏

第5分科会(案)

映像配信 14:00~

テーマ・サブテーマ

グローバルにつなぐ教育とのご縁

～SDGs（持続可能な開発目標）と新たな明日への礎のために～

趣旨・内容等

地球規模での人的な流動性や相互依存が高まり、グローバル化が大規模に広がっている。その中で新型コロナウイルス感染症拡大は、経済、気候変動、自然災害だけでなく感染症も地球規模で人々の暮らしに深刻な影響を及ぼすことを改めて私たちに気づかせた。国連は2015年にSDGs（持続可能な開発目標）として17の目標を設定し、グローバルな課題の解決に向け様々な取組みを行っている。第5分科会ではSDGsを取り上げ、現代社会の課題の解決につながる多様な価値観や行動を生み出すことを目指す日本や各国の取組みを知る機会とする。

また、各国の教育事情やそこで学ぶ子どもたちのようす、学校と保護者との関わりなどについて報告を受け、グローバルな視点で教育について考える機会とする。

分科会形式 基調講演とディスカッション

基調講演講師 関西学院大学 SGU 招聘客員教授 久木田 純 氏

コーディネーター 島根大学教育学部 准教授 香川 奈緒美 氏

パネリスト 久木田 純 氏

(公財)日本ユニセフ協会学校事業部 副部長 鈴木 有紀子 氏

株式会社タビカラ 代表取締役 サミーラ グナワラデナ氏

島根県立飯南高等学校PTA 本間 康浩 氏

テーマ・サブテーマ

未来社会に対応するための教育とのご縁

～「主体的・対話的で深い学び」や「学校と社会の連携・協働」のあり方～

趣旨・内容等

2022年度から年次進行で実施される高校の新学習指導要領では、変化が激しくAIも導入される未来社会を子どもたちが生き抜くために、大きく2点が示された。1つには、教育課程全体を通して目指す資質・能力を「学びに向かう力、人間性等」などの3つの柱で整理し、それらを育成するために主体的・対話的で深い学びの実現を図ること。2つめには、よりよい社会をつくるという目標を学校と社会が共有しながら連携・協働していく、いわゆる社会に開かれた教育課程を実現することである。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校の臨時休業や分散登校、オンライン授業等の授業形態の変化など「対話的な」学びを妨げ、様々なイベント・行事の自粛など学校と地域社会との連携・協働を分断する懸念材料も出てきた。第6分科会では、新学習指導要領と新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を念頭において未来社会に対応するための教育について考える機会とする。

分科会形式 基調講演とディスカッション

基調講演講師 独立行政法人教職員支援機構 理事長 荒瀬 克己 氏

コーディネーター 島根大学 教育・学生支援本部 大学教育センター

教授 泉 雄二郎 氏

パネリスト 荒瀬 克己 氏

文部科学省科学技術・学術総括官 合田 哲雄 氏

(株)エブリプラン執行役員 グローカル研究所長

株式会社ERISA 常務取締役 技術責任者 石田 学 氏

島根県立出雲高等学校PTA会長 杉浦 弘明 氏

島根県立出雲商業高等学校PTA会長 今岡 正和 氏

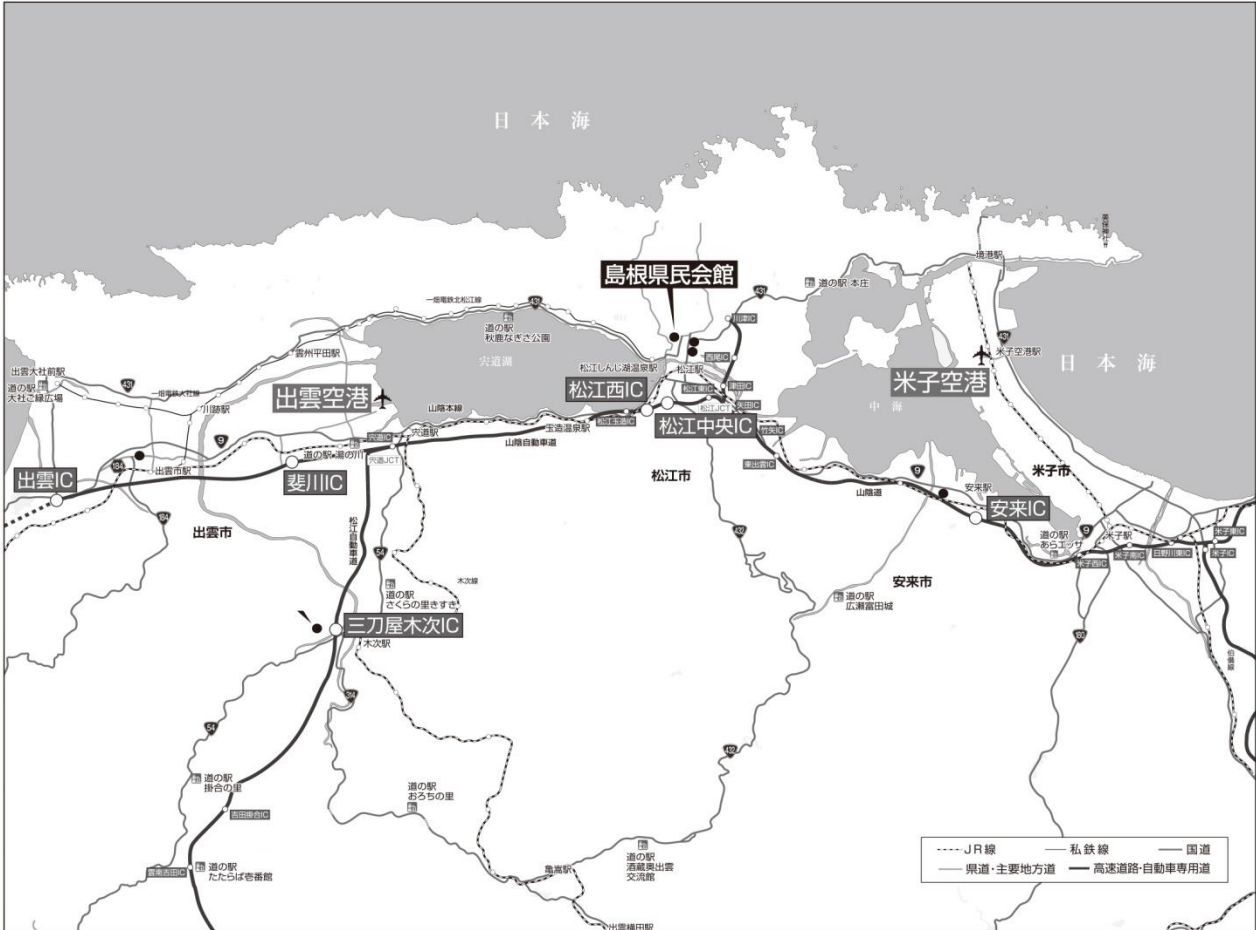
分科会アトラクション(案)

次のアトラクションを前撮りし、分科会の映像配信に合わせて配信する。

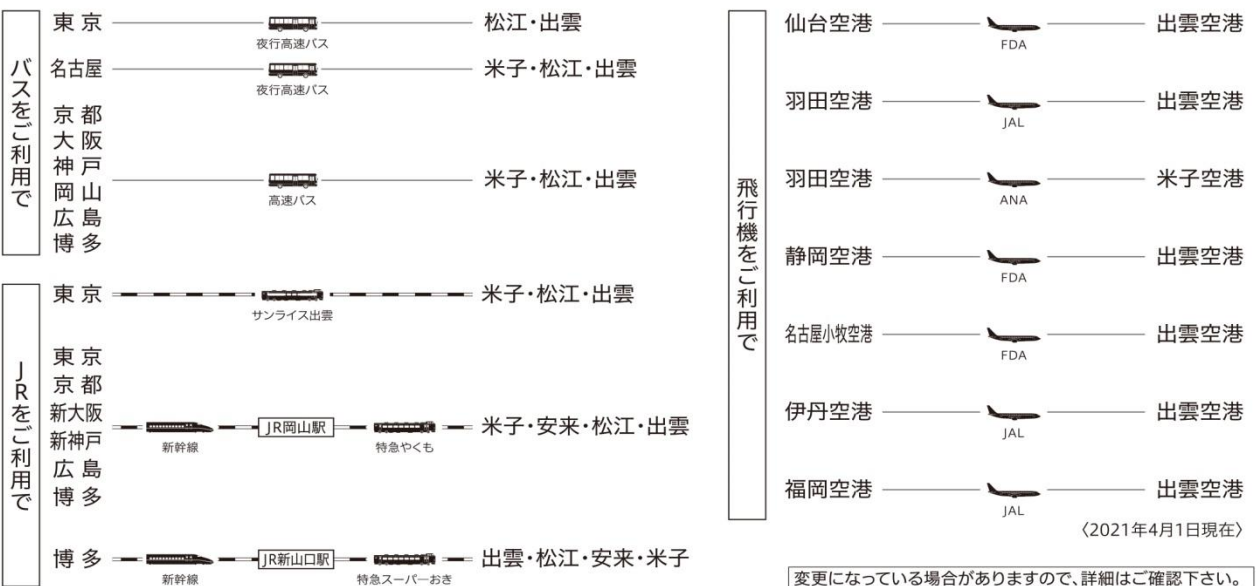
	内 容	出 演
a	島根県西部の伝統芸能である石見神楽を披露する。華やかな衣装・勇壮な舞・リズムカルな囃子を楽しんでいただく。	島根県立江津高等学校神楽愛好会
b	「長崎の鐘」や「この子を残して」等の著書で知られ、地元雲南市三刀屋(みとや)町にゆかりのある永井隆医学博士の生涯や業績を紹介する創作劇を行う。	島根県立三刀屋高等学校演劇部
c	出雲市内を流れる農業用水路高瀬川の開削に尽力した大楯七兵衛の開削の様子を表した「新七兵太鼓」をメインに2曲を披露する。	島根県立出雲農林高等学校 出農太鼓部

アクセス及び会場付近図

会場へのアクセス(広域)



全国からのアクセス



松江市

会場へのアクセス 島根県民会館



◆島根県民会館

〒690-0887
島根県松江市殿町158
TEL:0852-22-5506

- 最寄り駅/JR松江駅から
徒歩:約25分(約1.9km)、タクシー:約15分
- 松江中央又は松江西ICから車で約10分

●飛行機利用

- 出雲空港から松江駅まで
バスで約35分
- 米子空港から松江駅まで
バスで約45分

●自家用車駐車場

会場付近に、多少有料駐車場有り



大会後援市紹介

松江市

島根県の県庁所在地。東の中海、西の宍道湖に挟まれ、市中心部にその2つの湖をつなぐ大橋川が流れる水の都。明治期に島根県尋常中学校の英語教師として赴任したラフカディオ・ハーンは、『知られざる日本の面影』を著わして日本文化を世界に紹介した。旧市街北には、国宝松江城がそびえる。

武家屋敷と堀川遊覧船



安来市

民謡「安来節」に合わせて踊る「どじょう掬い」は、全国に知られている。その「ドジョウ」の養殖も盛んで年間4tを超える生産量がある。市の南部にある「足立美術館」は、「横山大観」の日本画を多数収蔵している美術館であるが、日本庭園も世界的に有名で多くの観光客が訪れる。

あらエッサくんとJR安来駅



雲南市

古くは、日本独自の製鉄法「たたら製鉄」が行われた地であり、市内各所には神話の舞台にもなった地が点在する。昭和20年8月、長崎市で被爆後も人々に戦争の愚かさ、平和の尊さを訴え続けた永井隆の生誕の地。市内には、長崎市永井隆記念館とは姉妹館の「永井隆記念館」がある。

平和への祈り 永井隆記念館



出雲市

斐伊川、神戸川が流れる出雲平野の中心都市で、空の交通拠点「出雲縁結び空港」がある。北部は縁結びの神様で知られる国宝「出雲大社」が鎮座し、全国から多くの参拝客が訪れる。毎年10月には、大学3大駅伝の一つである「出雲全日本大学選抜駅伝競走（出雲駅伝）」が行われる。砂地を利用して、ブドウ栽培やサツマイモ栽培も盛ん。

日本海と出雲日御碕灯台



※写真は雲南市以外、しまね観光ナビ島根県観光写真ギャラリーより (<https://www.kankou-shimane.com/>)